

授業科目名	建築設計製図Ⅱ	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	168 時間
担当者	西 利一郎 横山 陽一 前田 裕希 福ヶ迫 航	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年	開講時期	前期	後期	○ 通年
到達目標	1.鉄筋コンクリート造（ラーメン構造）の基本的な図面が描ける。 2.鉄筋コンクリート造（壁式構造）の基本的な図面が描ける。 3.鉄骨造の基本的な図面が描ける。				
授業形態	△ 講義	○ 実習	演習	※ 主たる方法：○ その他：△	
授業計画	回数	授業内容			備考
	1~12	鉄筋コンクリート造（ラーメン構造）の基本的な図面（平面図・断面図・立面図・矩計図・詳細図・仕上表）のトレース			
	13~24	鉄筋コンクリート造（壁式構造）の基本的な図面（平面図・断面図・立面図・矩計図・詳細図・仕上表）のトレース			
	25~36	鉄骨造の基本的な図面（平面図・断面図・立面図・矩計図・詳細図・仕上表）のトレース			
	37~78	敷地や必要諸室などが設定された課題による，鉄筋コンクリート造（ラーメン構造）の設計製図（平面図・断面図・立面図・各伏図・矩形図・詳細図・仕上表を作成）			
	79~120	敷地や必要諸室などが設定された課題による，鉄筋コンクリート造（壁式構造）の設計製図（平面図・断面図・立面図・各伏図・矩形図・詳細図・仕上表を作成）			
	121~168	敷地や必要諸室などが設定された課題による，鉄骨造の設計製図（平面図・断面図・立面図・各伏図・矩形図・詳細図・仕上表を作成）			
評価方法	日常の授業態度と出席率，定期試験を総合的に判断して評価する。				
教科書・参考図書	新しい建築の製図（学芸出版社），建築設計資料集成（丸善）				
関連科目	建築計画Ⅰ，建築計画Ⅱ，建築CAD設計演習Ⅰ建築CAD設計演習Ⅱ，建築一般構造				
連絡事項	定期試験として，各期末に課題実績を評価（計2回）する。 評価範囲や配布資料等については，随時連絡する。				

授業科目名	建築CAD設計演習 II	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	30 時間
担当者	福ヶ迫 航	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年	開講時期	○	前期	後期 通年
到達目標	近年急速に普及しているBIM（本授業ではArchi cadを用いる）の概念やモデリング及び図面書き出し方法の学習を通じ、BIMを用いた図面一式（平面図・断面図・立面図・詳細図・仕上表）を作製できる。				
授業形態	○ 講義	実習	△ 演習	※ 主たる方法：○ その他：△	
授業計画	回数	授業内容			備考
	1	BIMソフトのインストール			
	2	BIM概論（BIMの普及状況，概念，操作法の概要）			
	3~8	BIMの基本（モデリングにおける基本作図の操作）			
	9	BIMの基本（レンダリングにおける基本操作）			
	10	BIMの基本（レイアウトにおける基本操作）			
	11~20	課題図面①を用いた作図			
	21~30	課題図面②を用いた作図			
評価方法	日常の授業態度と出席率，定期試験を総合的に判断して評価する。				
教科書・参考図書	Archicad Magic 1 (Grafhisoft社)				
関連科目	建築CAD設計演習 I，建築計画 I，建築計画 II，卒業設計				
連絡事項	BIMソフトとして，Grafhisoft社 Archicad（教育版）を使用する。				

授業科目名	建築計画Ⅱ	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	56	時間
担当者	前田 裕希	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事		
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年	開講時期		前期	後期	○ 通年
到達目標	1.非住宅系各ビルディングタイプ（集合住宅、小学校、幼稚園、図書館、美術館、劇場、事務所、商業施設、病院）の事例の建築計画を調査・分析し内容を説明できる。 2.非住宅系の各ビルディングタイプの建築計画を立てられる。					
授業形態	△ 講義	実習	○ 演習	※ 主たる方法：○ その他：△		
授業計画	回数	授業内容				備考
	1	非住宅系の各ビルディングタイプの調査と分析について説明				
	2~8	非住宅系の各ビルディングタイプの調査				
	9~14	非住宅系の各ビルディングタイプのプレゼン資料（スライド）作成				
	15	集合住宅の事例についてのプレゼン				
	16	小学校の事例についてのプレゼン				
	17	幼稚園・保育園の事例についてのプレゼン				
	18	図書館の事例についてのプレゼン				
	19	美術館の事例についてのプレゼン				
	20	劇場の事例についてのプレゼン				
	21	事務所の事例についてのプレゼン				
	22	商業施設の事例についてのプレゼン				
	23	商業施設の事例についてのプレゼン				
	24	病院の事例についてのプレゼン				
	25~28	非住宅系ビルディングタイプの建築計画の立案				
	29~49	プレゼンを行った事例についてプレゼンボードの作成				
50~56	非住宅系各ビルディングタイプの建築計画のポイントの復習と確認					
評価方法	日常の授業態度と出席率，課題（プレゼン，プレゼンボード，建築計画の立案）を総合的に判断して評価する。					
教科書・参考図書	図説やさしい建築計画（学芸出版社），新建築など建築雑誌，コンパクト建築設計資料集成（丸善）					
関連科目	建築計画Ⅰ，建築設計製図Ⅰ，建築史，建築設計製図Ⅱ，卒業設計					
連絡事項	プレゼンについてはグループで，プレゼンボードについては個人で取り組む。 建築計画の立案については，「卒業設計」での建築計画立案にも活用する。					

授業科目名	建築環境工学	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	56	時間
担当者	内野 雅彦	担当者実務経験		建築施工・建築設計業務等に従事		
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年	開講時期		前期	後期	○ 通年
到達目標	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を得て、建築物の計画や設計に応用できる。					
授業形態	○ 講義	実習	演習	※ 主たる方法：○ その他：△		
授業計画	回数	授業内容				備考
	1~8	建築環境工学概論（建築環境工学の考え方）				
	9~12	外部気候と室内環境の関係				
	13~16	空気線図を用いた相対湿度等の算出方法				
	17~20	温熱要素と温熱環境指標				
	21~24	伝熱の基礎と熱貫流量の計算				
	25~28	断熱材とその効果、蓄熱と室温変動				
	29~32	室内の空気汚染物質とその特性,必要換気量と換気回数の計算				
	33~36	換気の方式と通風経路				
	37~40	日照と建築計画, 日影曲線による日照と日影の検討				
	41~44	直達日射と天空照射, 日射熱の流入・日照調整				
	45~48	光の量と単位, 採光計画, 昼光率の計算				
	49	音の性質, 騒音				
	50~52	遮音と吸音				
	53~56	室内音響				
評価方法	日常の授業態度と出席率, 定期試験を総合的に判断して評価する。					
教科書・参考図書	改訂版 初めての建築環境 (学芸出版社)					
関連科目	建築計画Ⅰ, 建築設計製図Ⅰ, 建築計画Ⅱ, 建築設計製図Ⅱ, 卒業設計					
連絡事項	定期試験として, 各期末に試験を実施(計2回)する。 試験時間は50分とする。(計算機の持込可) 試験範囲や配布資料等については, 随時連絡する。					

授業科目名	建築設備	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	56 時間
担当者	内野 雅彦	担当者実務経験		建築施工・建築設計業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年	開講時期		前期	後期 ○ 通年
到達目標	1.建築設備の種類やあり方について説明できる。 2.建築設備の計画を行うことができる。				
授業形態	○ 講義		実習		演習 ※ 主たる方法：○ その他：△
授業計画	回数	授業内容			備考
	1~7	建築と建築設備（建築設備の位置づけ、目的とシステム設備方式の概略、計画など大要の把握、耐震計画の概要など）			
	8~14	設備原論（熱の流れ、水、空気、電気の基礎知識などの概要把握）			
	15~21	空気調和設備（空気線図、空気調和負荷、湿り空気、冷房暖房、換気、排煙などの概要の把握）			
	22~28	給排水衛生設備（給水、給湯、排水、通気、衛生器具、ガス、污水排水処理、消火設備などの概要の把握）			
	29~35	給排水衛生設備（給水、給湯、排水、通気、衛生器具、ガス、污水排水処理、消火設備などの概要の把握）			
	36~42	ゴミ処理施設（廃棄物の処理、ゴミ資源化の概要）			
	43~49	電気設備（受電変電設備、屋内配線設備、動力設備、照明設備、弱電設備の概要の把握）			
	50~56	搬送設備（エレベーター、エスカレーター、エアーシュータ、駐車場設備などの概要の把握）			
評価方法	日常の授業態度と出席率、定期試験を総合的に判断して評価する。				
教科書・参考図書	図説 建築環境（学芸出版社）				
関連科目	建築計画Ⅰ，建築計画Ⅱ，建築環境工学				
連絡事項	定期試験として、各期末に試験を実施（計2回）する。 試験時間は50分とする。（計算機の持込可） 試験範囲や配布資料等については、随時連絡する。				

授業科目名	構造力学 II	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	69 時間
担当者	福ヶ迫 航	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年	開講時期		前期	後期
				○	通年
到達目標	1.断面の諸係数の算出と応用について理解する。 2.応力度やひずみ度, 座屈について理解する。 3.構造物の変形を理解し, ひずみの計算ができる。 4.不静定構造物の応力計算ができる。				
授業形態	○ 講義		△ 演習	※ 主たる方法: ○ その他: △	
授業計画	回数	授業内容			備考
	1~10	応力とひずみおよび部材の変形について			
	11~25	断面の諸係数について (図心と断面2次モーメント, 断面係数)			
	26~35	建築に用いられる材料と材質および許容応力度について			
	36~50	座屈,たわみ,たわみ角についてモールの定理と弾性曲線の式			
	51~65	不静定構造物の解法, たわみ角法と固定モーメント法			
	66~69	2級建築士試験問題を用いた演習			
	評価方法	日常の授業態度と出席率, 定期試験を総合的に判断して評価する。			
教科書・参考図書	解きながら学ぶ構造力学 (学芸出版社)				
関連科目	建築一般構造, 建築構造設計				
連絡事項	定期試験として, 各期末に試験を実施 (計2回) する。 試験時間は50分とする。(計算機の持込可) 試験範囲や配布資料等については, 随時連絡する。				

授業科目名	建築構造設計	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	69 時間
担当者	中濱 幸志郎	担当者実務経験		構造設計・構造計算業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年	開講時期		前期	後期 ○ 通年
到達目標	1.構造体の力学的性質についての十分な理解と、建物全体についての構造設計法の掌握。 2.許容応力状態に対する部材と接合部を考慮、安全性・経済性等各種の合理性を追求する。 3.具体的な説明と多くの例題を通し、基本的理解のみならず、応用力が得られることによる独習的内容消化。 4.部材の特質に応じた構造の方法と構造デザインの創造性を理解・習得する。				
授業形態	○ 講義		△ 演習	※ 主たる方法：○ その他：△	
授業計画	回数	授業内容			備考
	1~5	日本の構造設計の考え方			
	6~10	荷重の算定法			
	11~13	固定荷重・積載荷重			
	14~28	積雪荷重・風圧力・地震力			
	29~34	鉄筋コンクリート構造について			
	35~50	鉄筋コンクリート構造材料, 梁・柱, スラブの断面算定, 地盤と基礎			
	51~56	鉄骨構造について			
	57~64	鉄骨構造材料, 接合方法, 引張材, 圧縮材, 梁・柱の算定			
	65~69	二次設計(層間変形角・剛性率・偏心率・保有水平耐力)			
評価方法	日常の授業態度と出席率, 定期試験を総合的に判断して評価する。				
教科書・参考図書	図説 やさしい構造設計(学芸出版社)				
関連科目	構造力学Ⅰ, 建築一般構造				
連絡事項	定期試験として, 各期末に試験を実施(計2回)する。 試験時間は50分とする。(計算機の持込可) 試験範囲や配布資料等については, 随時連絡する。				

授業科目名	建築施工Ⅱ	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	84 時間
担当者	横山 陽一 西 利一郎	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年	開講時期		前期	後期 ○ 通年
到達目標	工種の理解・知識を深めるとともに施工及び施工管理の知識を習得する。				
授業形態	○ 講義	△ 実習	演習	※ 主たる方法：○ その他：△	
授業計画	回数	授業内容			備考
	1～20	仕上げ工事(左官工事, 建具工事, ガラス工事, カーテンウォール工事)			
	21～40	設備工事(設備工事の要点, 電気設備工事, 給排水衛生設備工事等)			
	41～58	改修工事, 外構工事, 解体工事			
	59～84	建築施工に関する実習(材料実験, コンクリート供試体破壊試験)			
	評価方法	日常の授業態度と出席率, 定期試験を総合的に判断して評価する。			
教科書・参考図書	建建築施工 基礎教材 (井上書院), 2級建築施工学科テキスト問題解説集セット (日建学院)				
関連科目	建築一般構造, 建築材料, 建築測量				
連絡事項	定期試験として, 各期末に試験を実施(計2回)する。 試験時間は50分とする。(計算機の持込可) 試験範囲や配布資料等については, 随時連絡する。				

授業科目名	建築法規Ⅱ	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	56	時間
担当者	西 利一郎	担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事		
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年	開講時期		前期	後期	○ 通年
到達目標	1.建築基準法及び建築関係法令において、条文の趣旨や内容を理解する。 2.法令集の有効な使い方を身につける。					
授業形態	○ 講義	実習	△ 演習	※ 主たる方法：○ その他：△		
授業計画	回数	授業内容				備考
	1～2	一般構造				
	3～6	敷地と道路				
	7～10	用途地域				
	11～14	構造強度				
	15～18	避難施設				
	19～22	耐火, 防火地域・準防火地域				
	23～26	防火区画				
	27～30	内装制限				
	31～32	建築基準法雑則				
	33～36	建築士法				
	37～40	関係法令①				
	41～44	関係法令②				
	45～48	関係法令③				
	49～52	関係法令④				
	53～56	問題演習				
評価方法	日常の授業態度と出席率, 定期試験を総合的に判断して評価する。					
教科書・参考図書	建築法規概論(実教出版), やさしい建築法規(学芸出版社), 建築関係法令集(総合資格学院)					
関連科目	建築設計製図Ⅱ, 建築計画Ⅱ, 構造力学Ⅱ, 建築施工Ⅱ					
連絡事項	定期試験として, 各期末に試験を実施(計2回)する。 試験時間は50分とする。(法令集の持ち込み可) 試験範囲や配布資料等については, 随時連絡する。					

授業科目名	卒業設計		必修/選択	必修	授業時間数(50分)	84 時間		
担当者	前田 裕希 栗本 尚樹		担当者実務経験		現場管理・施工管理業務等に従事 設計監理業務等に従事			
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年		開講時期		前期	後期	○ 通年	
到達目標	1.建築物の企画立案ができる。 2.建築的に意義のあるテーマを設定できる。 3.テーマやコンセプトに即し形態化, 空間化できる。 4.プレゼン資料が作成し相手に説明できる。							
授業形態	講義	○	実習	演習	※ 主たる方法:○ その他:△			
授業計画	回数	授業内容					備考	
	1~15	企画・立案のためのリサーチ						
	16~30	企画・立案						
	31~43	平面, 断面, 立面のエスキース						
	44~54	模型による検討						
	55~65	図面作製						
	66~84	プレゼン資料(プレゼンボード, 完成模型)の製作						
評価方法	日常の授業態度, 出席率, 各提出物の提出状況を総合的に判断して行う。							
教科書・参考図書	建築系雑誌, 建築設計資料集成							
関連科目	建築設計製図Ⅰ, 建築設計製図Ⅱ, 建築計画Ⅰ, 建築計画Ⅱ, 建築史							
連絡事項	完成した作品を卒業設計等作品展や建築展にて展示する。							

授業科目名	建築実務 II	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	84 時間
担当者	土居 康紀 新屋 尚樹	担当者実務経験		設計監理業務等に従事	
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年	開講時期		前期	後期 ○ 通年
到達目標	1.建築設計・工事監理の実務にかかわる実践的知識を理解することにより、シェルターの役割（技術）と造形の芸術性を総合しながら空間を構築できる力を身につける。 2.家具づくりの基礎を学び、素材選びから原価管理まで行えるようになる。				
授業形態	○ 講義	△ 実習	演習	※ 主たる方法：○ その他：△	
授業計画	回数	授業内容			備考
	1~6	大規模建築の実例紹介と解説			
	7~18	道路、公園など都市施設整備計画			
	19~27	今後の都市づくりと都市計画の課題			
	28~36	3Dソフト(Google SketchUp)を用いた集合住宅設計			
	37~39	家具のデザイン・製作工程計画表の作成			
	40~48	材質選定・CAD図の作図			
	49~81	製作実習			
	82~84	評価・講評			
	評価方法	日常の授業態度と出席率，定期試験を総合的に判断して評価する。			
教科書・参考図書					
関連科目	建築計画 I， 建築計画 II， 卒業設計				
連絡事項	定期試験として，各期末に試験を実施（計2回）する。 試験時間は50分とする。 試験範囲や配布資料等については，随時連絡する。				

授業科目名	一般教養B	必修/選択	必修	授業時間数(50分)	28 時間
担当者	南迫 絵理	担当者実務経験		企業にて接客・事務職, 専門学校教員として勤務	
対象学科・学年	建築デザイン学科 2年	開講時期	前期	後期	○ 通年
到達目標	職業人に求められるスキルを理解し, 基礎的な知識をもとに体現できるようになることを目標とする。				
授業形態	講義	○ 実習	演習	※ 主たる方法: ○ その他: △	
授業計画	回数	授業内容			備考
	1~4	ビジネスでの言葉遣い, 敬語の基本, 接遇用語			
	5~12	来客応対 (受付の要領, 名刺の取り扱い), ロールプレイング			
	13~16	一般的なマナー			
	17~20	文書の取り扱い, ビジネスメールの作成			
	21~28	電話応対 (受け方, かけ方, 基本用語), ロールプレイング			
評価方法	日常の授業態度, 出席率, 各課題の提出状況, 定期試験を総合的に判断して行う。				
教科書・参考図書	プリント配布				
関連科目	一般教養A				
連絡事項	定期試験として, 各期末に試験を実施する。 試験時間は50分とする。 試験範囲や配布資料等については, 随時連絡する。				